

## 【活用にあって】

たちばなのあけみ

橘 曙 覧は、江戸時代の終わりごろに活躍した歌人・国学者です。有名なのは「独楽吟」という短歌です。全 52 首、すべてが「たのしみは」で始まり「とき」で終わります。問 2 にあるように日々の生活の中での楽しみを温かくすくいあげてます。150 年以上前の歌ですが、古びていません。

中学校での古典の学習では、古典の世界に親しむ態度を育成します。具体的には、昔の人のものの見方や考え方に触れる学習です。自分と古人を比較することによって、時代・社会・言語・文化に変化はあっても、同じ国に住む人間として、喜怒哀楽の情には大きな差異がないことを理解させることが大切です。

ふみ うち

たのしみは そぞろ読みゆく 書の中に 我とひとしき 人をみし時（曙覧）

### 解答例

問 1 : ①オ      ②イ      ③エ

問 2 : ①ウ      ②ア      ③イ